

平成二十八年年度

適性検査型・特別奨学生選抜入試

第一回

解答・

解説

検査I

郁文館中学校

〔問題1〕

解答例

自分に足りないものを数えるのではなく、最低限の基準をクリアした上で、弱みのようでも自分にしかできないことを強みと考え、開き直ってそれをどう使うかを考えれば、できることは必ずあるはずだという答え。(九七字)

解答のポイント

「できることが必ずある」という結論が大前提である。その上で、「持っていない物を数える」のではなく、「持っている物を数える」ことにより、「自分にしかできないこと」を探し、それを「強みと考える」ことについて書いて欲しい。また、不足していることを認めつつも「開き直ってそれを使う」という点が重要である。

ポイント① 「持っている物を数える」というプラス思考を肯定的に書いている。

ポイント② ポイント①をふまえた上で、自分にできることを「強み」と捉えられている。

ポイント③ 「開き直る」という発想の転換について書かれている。

〔問題2〕

解答例

金銭的な尺度の犠牲になってきた田舎が持っているその土地にしかない資源をめいっばい使いつつ、喜び、喜ばれることを目的とした、金では計れない価値のある物々交換を楽しもうという決意を込めたから。(九四字)

解答のポイント

問題指示通り、「決意」と「金銭」を文意にそった「金銭的な尺度で計れないもの」「あるものをめいっばい使う決意」などの形で使う。また、漢字「歓」の字義を説明するなどして、単なる交換以上の価値について述べられるときれいにまとめることができる。散らばっている解答のポイントをどうまとめるかが問われる問題である。

ポイント① 決意・金銭が適切な文脈のなかで使用されている。

ポイント② 「歓」の字義（喜ぶ、楽しむ）、あるいは漢字を書き換えた理由が書かれている。

ポイント③ 金銭的な尺度ではない価値について言及されている。

〔問題3〕

解答例

私がこれから先の人生でやりたいことは、小学校の先生になることだ。生徒を元気づけ、やる気にさせる先生になることが、私の目標だ。しかし、私には一つ大きな「弱み」がある。それは、あまり勉強が得意でないことだ。漢字テストでも算数のテストでもあまり良い点をとることはない。先生からも同じことを何度も注意される。その時の気分は最悪だ。自分が情けなくて、涙が出そうになる。

しかし、勉強ができないということは、勉強ができない生徒の気持ちがよく分かるということだ。勉強ができなくて苦しかったり、つらかったり、情けなかったりする気持ちだけでなく、どんな言葉をかけられたら元気になるのかについても考えることができる。これは、勉強がよくなる人よりも私のほうがうまくできるはずだ。

勉強ができない私は、先生になるには向いていないと思っていたが、勉強ができないことも、そう考えれば「強み」なのだと思付くことができた。私はこの「強み」を生かし、勉強ができなくて苦しんでいる生徒の気持ちがよく分かり、元気にさせることができる先生になりたい。

(454字)